

2017年1月23日

熊本市 市長
大西 一史様

DOCOMOMO Japan

代表 松隈



熊本市役所花畑町別館の解体着手に対する緊急の要望

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日本イコモス国内委員会、DOCOMOMO Japan、日本建築学会九州支部からの熊本市役所花畑町別館の保存活用の要望に対して「熊本市花畑町別館の解体について」の回答をいただきました。その回答に対して僭越ですが緊急の要望を致す次第です。解体には2億円程の予算が必要と聞いており、その金額をかければ、復興の事務スペースとして花畑町別館を利用できるとも考えられますので、節税も兼ねる活用を是非再検討いただけないでしょうか。熊本震災の復興という課題と立ち向かっている時だからこそ、この建築が震災に耐えたことも含めて、復興のシンボルにも成り得る貴重な存在です。以下の三点についてご検討いただき再度ご回答頂きますようお願い申し上げます。

1. 熊本市花畑町別館(1936年)は、通信建築の東京中央郵便局(1931年)、大阪中央郵便局(1939年)と同時代同価値の建築です。東京中央郵便局に対して文化庁は重要文化財の価値があると国会で答弁しましたが残念ながら郵政民営化の波の中、大部分が解体されてしまいました。これらの通信建築の価値はまだ一般社会に理解されていませんが、同様の機能主義デザインであるバウハウス(1926年)やファンネル工場(1929年)はすでに世界遺産に登録されています。熊本市花畑町別館は、日本で唯一現存する機能主義デザインの戦前通信建築として非常に価値の高い建築です。「熊本市花畑町別館」の文化財的価値を再認識いただく機会を設けていただけないでしょうか。

2. 解体前に調査し報告書を作成するとのご回答ありがとうございます。上記のように日本で唯一現存する機能主義デザインの作品のため、材料や部材の調査まで学術的に実施する必要があります。期間としては最短でも約半年から一年を要しますので、解体の開始時期についてご協力をお願い致します。調査に際して、三団体から専門家を派遣しご協力致しますが、部材の調査、保管等について予算のご準備をお願い致します。

3. 「熊本市花畑町別館」は関東大震災の経験を踏まえた耐震設計で建てられています。この前後の建築は耐震補強の不要な建築も散見され、東海大学所蔵の構造図で正確な診断を実施すべきです。竣工後に増築された四階部分を撤去すれば、現状のまま現在の耐震性能を有していることも否定できません。以前の耐震診断に基づき解体してしまうと耐震性能がある公共建築を貴重な税金を使い取り壊してしまうことになりかねません。東海大学所蔵の構造図による耐震診断の早急な実施を再度お願い致します。

尚、この建築の再生や活用、調査に関して、三団体で学術的・技術的な協力を可能な限りさせていただきます所存です。

敬具